

プレシャス・ピアノ・コレクション 1【初級編】

1. さよならの夏～コクリコ坂から～／手寫葵

SMFあり ★☆☆☆☆

スタジオジブリのアニメ映画『コクリコ坂から』の主題歌です。1963年当時の横浜が舞台となったこの映画の雰囲気ピッタリの、ノスタルジックで落ち着いた曲調が印象的です。イントロはのびやかに、歌のメロディーが始まる[A]からは優しいタッチで穏やかに弾き始めましょう。楽譜上のスラーを意識しながら、フレーズの流れを丁寧に表現してください。メロディーの音域が高くなる[B]からは音量を上げて盛り上げましょう。最後のCodaの部分はミュージックデータのシンバルの音にタイミングを合わせて徐々にテンポを落とし、静かに曲を閉じます。

2. ライオンは寝ている／H.ペレッティ、L.クレアトーレ、G.D.ワイス

SMFあり ★☆☆☆☆

南アフリカのアーティスト、ソロモン・リンダによる1939年の作品で、アメリカのヴォーカル・グループ「トーケンズ」による1961年のカバーが知られています。ライオンがのんびりと眠っている様子を思い浮かべながら、力を抜いた自然なバウンスのリズムで演奏しましょう。[B]、[E]の左手のストライドは、単純な4つ打ちの中にしっかりと裏拍のスウィングのリズムを感じながら弾くことがポイントです。[C]ではミュージックデータと左手の一部が主旋律で、右手のフレーズはメロディーの合いの手です。右手は音量を控えめに、軽快なフレーズをさりげなく演奏しましょう。曲の最後では、ライオンのそばから徐々に遠ざかっていくようなイメージで弾いてみると良いでしょう。

3. ガヴォット／F.J.ゴセック

SMFあり ★☆☆☆☆

ガヴォットはフランスで17～18世紀に流行した、4/4拍子または2/2拍子で演奏される快活な舞曲形式です。原曲は1786年にゴセックが作曲したオペラ『ロジュー』の中で演奏され、その後ヴァイオリンと管弦楽用に編曲されて人気となりました。スタッカートで演奏される愛らしいメロディーとシンプルな伴奏が印象的で、現代では「ガヴォット」と言えばこの曲を思い浮かべる人が多いと言われるほど、広く親しまれています。2拍子の拍子感を体で感じながら速めのテンポで演奏しましょう。スタッカートはバイオリンの弓のバウンドをイメージし、タッチをうまくコントロールすることで軽快さを出してください。

4. ギンガムチェック／AKB48

SMFあり ★☆☆☆☆

アイドルグループ「AKB48」の大ヒット曲です。明るく楽しい雰囲気を感じて演奏しましょう。楽譜は1コーラス分の長さですが、この1コーラスの中に3通りのリズムがあり、それぞれのニュアンスの違いを表現することで流れと構成を描き出すのがポイントです。[A]ではメロディーを滑らかに、きれいに歌うこと。左手も1小節のパターンとしてとらえ、縦のビートが強くなりすぎないようにしましょう。[B]では大きな拍の単位で感じ、「間」のあるビートのニュアンスで。左手の休符を大切にしましょう。[C]では開放的な8ビートになります。音が弱くなったりメロディーが不揃いにならないように、しっかりと演奏しましょう。

5. カーネーション／椎名林檎

SMFあり ★☆☆☆☆

同名のNHK連続テレビ小説の主題歌として書き下ろされました。とても簡潔なメロディーを持った3拍子のバラードでありながらも、人生の波乱や慈しみの情を織り込んだ、深い表現力を持った作品です。半音階を用いたメロディーや、テンション・ノートを含んだややひねりの効いたコード感が大人っぽく個性的です。原曲の言葉数が少なくメロディーのフレーズが短いですが、そこに意味を込めるためには、まずは音の長さや休符の位置、スラーによるまとまりをよく読み取って、常に正確なフレージングを心掛けることが第一歩です。さらに演奏表現として、[A]はささやくように優しく、[B]では次第に強く、たっぴりと音を伸ばして、ざわめくような動きを表現しましょう。

6. ソラース／S.ジョプリン

SMFあり ★☆☆☆☆

ラグタイム王と呼ばれたスコット・ジョプリンによる1909年の作品です。1973年公開のアメリカ映画『スティング』で、彼の代表曲のひとつ「ジ・エンターテイナー」とともに使用されて有名になりました。「ソラース（慰め）」というタイトルのおり、甘くせつないメロディーが印象的です。ここでは原曲の一部を取り出して、やさしくアレンジしてあります。[A]では、落ち着いた曲調の中でラグタイムらしい特徴を含んだメロディーが奏でられていきます。主旋律とそれ以外のパートの音量バランスに気を配りましょう。[B]からはテンポ感をややアップさせ、右手の高音域による華やかさを出して演奏しましょう。

7. ニューヨーク・ニューヨーク／フランク・シナトラ

SMFあり ★★☆☆☆☆

1977年に公開された同名のアメリカ映画のテーマ曲で、フランク・シナトラのカバーによって広く知られるようになりました。ここでは、シナトラ・バージョンのビッグバンドのイメージに、テレビCMで耳にするようなピアノ・ソロ風のイントロを組み合わせてあります。リズムに関しては、スウィング表記で指示された8分音符と、**A**、**E**、**G**などでの付点8分音符のパターンがありますが、いずれもスウィングと考えて構いません。イントロなどでは歯切れよく、ヴォーカルのメロディーはやや緩く適度に自由なノリを持たせて、という区別を表わしていると考えてください。**Slower**からはゆったりした3連のリズムで、それまでより力強いビートで盛り上げましょう。

8. おかあさんの唄 ～映画『おおかみこどもの雨と雪』より／アン・サリー

SMFあり ★★☆☆☆☆

映画『おおかみこどもの雨と雪』主題歌で、子供を思う母親の心を歌う詞は細田守監督自身によるものです。歌としての形式よりは詞のストーリーに沿った自由な構成が特徴で、リフレインでの「ううう」「うおおん」というおおかみの言葉での優しい対話が印象的です。演奏でも、1行ずつ言葉を語りかけるような歌い方と、それに追従するテンポの揺らし方、間の取り方が要になります。**A**や**C**では、2小節のフレーズの終わりごとにわずかにテンポを落として休みをとり、また次のフレーズに入る感覚を自然に掴めると良いでしょう。**B**から**C**、**D**から**E**などの区切りではさらに大きく *rit.*→*a tempo* の動きを出しましょう。

9. KIBOU／TOKIO

SMFあり ★★☆☆☆☆

運送会社のCM曲としてお馴染みとなった、TOKIOのロックナンバーです。テンポが速いので、出だしからリズムに乗りスピード感を持って弾きましょう。**C**では3回の繰り返しの中にエネルギーを溜めていき、最後のキメ（アクセント）で勢いよくサビに入ります。同様の**F**ではいったん伴奏も静かになるので、*p*から*f*にかけてじっくり *cresc.* してください。サビ (**D**) では、左手のバックイングのタイミングやニュアンスを安定させることと、メロディーが一連のフレーズになるよう均一な力で弾くことを心がけましょう。また**D**の12小節目のようなシンコペーション（食い）では、テンポ感を乱すことなくビートの裏に上手に音をはめ込むよう意識しましょう。

10. フリーダム／ワム!

SMFあり ★★☆☆☆☆

1980年代に活躍したイギリスのデュオ「ワム!」の1985年のヒット曲。キャッチーなメロディーと、基本的に4拍でスネアドラムを打つ元気なリズムが特徴です。まずはこのリズムにタイトに乗って演奏することが最大のポイントです。**A**や**E**など8分音符の形を持った伴奏形でも、4分音符の位置をしっかりと正確に合わせるように意識しましょう。メロディーも全体にアタック感をはっきりと出したいので、フレーズを滑らかにつなぐことよりもノンレガート気味のタッチを心がけるとよいでしょう。さらに、随時短いペダルを使うことでより豊富なニュアンスが出せるでしょう。

11. 悲しき天使／ロシア民謡

SMFあり ★★☆☆☆☆

日本で「悲しき天使」や「花の季節」の題名で知られるこの曲は、もとは20世紀初頭に当時のソ連で作られた大衆歌謡でした。1968年に米国の歌手メリー・ホプキンが「Those Were the Days」のタイトルで歌って世界的に知られるようになり、このときに森山良子などによる日本語カバーもヒットしました。曲はロマ（ジプシー）民謡風の、哀愁を帯びた旋律を持つフォーク調です。レガートでしっとりと歌う**A**ではメロディーを柔らかくふくらませ、**B**手前のブレイク気味のアウフタクト（3つの音符）を経た軽やかな2拍子のサビでは、左手の2拍ずつのスラーを特に意識しましょう。繰り返しや転調によってどんどんと盛り上げてゆくのも古い民謡スタイルの特徴です。

12. あすという日が／夏川りみ

SMFあり ★★☆☆☆☆

もとは中学生のための合唱曲です。東日本大震災により中止となったコンクールに出場予定だった合唱部の生徒が避難所で歌ったことから話題となり、夏川りみ、秋川雅史の競作によるカバーも発売されました。希望に満ちた詞がメロディーの一音一音に込められ、自然と口ずさめるような曲でありながらも、未来へ向かう力強さが感じられます。**A**（イントロ）は透明感のある音で優しく弾き始めましょう。**B**からはメロディーより高い音域にオブリガート（合いの手）がしばしば現れ、重層的なアレンジになっています。メロディーとのバランスやタッチの差を考慮し、ピアノ1台による演奏の中でアンサンブル感を表現してみましょう。転調した**D**からは堂々と力強く歌い上げましょう。

13. 栄光の架橋／ゆず

SMFあり ★★★★★

フォークデュオ「ゆず」の2004年発表の楽曲です。NHKのアテネ五輪中継テーマ曲だったことから、その後もテレビのスポーツ番組等でよく使用され、長く親しまれています。夢と希望をテーマにした、ゆずらしい力強いヴォーカルが印象的なバラードです。Intro～Aは透明感を持った音で静かに弾き始め、最初のクライマックスとなるDで十分なfが出せるよう、効果的な強弱変化の流れを計算しましょう。Cの左手のスタッカートは無表情にならないように、小さなニュアンスの表現やペダリングを工夫してみてください。全体に盛り上がりの部分ではメロディーが内声を含むオクターブになるところが多く、難しいですが、レガート感を失わずに演奏しましょう。

14. 日曜はダメよ／M.ハジダキス

SMFあり ★★★★★

ギリシャの作曲家マノス・ハジダキスが書き下ろした、1960年の同名ギリシャ映画のテーマ曲です。主演のメリナ・メルクーリが歌い大ヒットし、第33回アカデミー賞の主題歌賞を受賞しています。日本でも「ザ・ピーナッツ」など多くのアーティストがカバーしており、軽快なリズムと陽気なメロディーはCM曲としても親しまれています。全体にメロディー、内声、ベースなど各パートの弾き分けがポイントとなるでしょう。Bの後半部分（リピート後）は、ミュージックデータの演奏に入っているマンドリン風のトレモロにも耳を傾けてみてください。これはギリシャの民族楽器「ブズーキ」を模しており、エキゾチックな雰囲気醸し出しています。Dの1回目は少し音量を落とし、リピート後の2回目との対比をうまく表現してみるのも良いでしょう。

15. エストレリータ／M.ポンセ

SMFあり ★★★★★

「エストレリータ」（スペイン語で「小さな星」）は、もとは甘く情熱的な恋心を歌った歌曲として作られましたが、ギターやヴァイオリンを始めとする、さまざまな編曲でよく知られています。ここでは、カクテル・ピアノ風のイメージでアレンジしてあります。イントロ～AのTempo Rubatoでは、自由に、華麗なピアノタッチで演奏しましょう。Bからはゆったりとした2ビートを感じてin tempoで弾きます。その際、よく出てくる右手の細かな音符は、堅苦しく弾かず少し余裕を持ってルーズな感じととらえると良いでしょう。Dの4小節目からは最後の聴かせどころです。ドラマチックにまとめ上げてください。

16. ハッピー・バースデー・トゥ・ユー／M.J.ヒル、P.S.ヒル

SMFあり ★★★★★

わずか8小節の短さながら、世界に知らない人はいないのでは、と思われるほど有名なメロディーを、個性的なジャズアレンジにしています。冒頭のRubatoではミュージックデータに入っているシンバル音の合図を聴きながらタイミングを合わせますが、拍を数えるのではなくフレーズ単位で合わせる意識を持つと良いでしょう。Bからはスウィングとなり、1コーラスごとに半音ずつキーが上がるとともに、テンポも少しずつアップしていきます。これに伴って自然に気持ちを高め、強弱においてもどんどん盛り上げていきましょう。メロディーの装飾音やフレーズのフェイク（変化）は遊び心を持って楽しく、最後のGは思い切りよく開放的に演奏し、最高に楽しい誕生日パーティーのようなイメージに仕上げましょう。

17. 神様のカルテ／辻井伸行

SMFあり ★★★★★

地方医療に携わる医師を主役とした同名映画のテーマ曲で、ピアニストの辻井伸行が映画の舞台をイメージして即興で作ったと言われています。ここではそのピアノを忠実に採譜したアレンジとなっています。終始、爽やかなアルペジオの伴奏をバックに滑らかなメロディーが流れます。テンポはやや速めに、颯爽とした雰囲気、また強弱も比較的fに重点が置かれているのでしっかりと強い意志を感じさせるように演奏しましょう。曲が長く、また全体に変化が多くないため、表現のメリハリを十分に出すように心掛けましょう。例えば、「やや抑えたIntro.から大きく呼吸をとって力強くAに入る…」などと事前に構成をよく考えておくと良いでしょう。

18. 夢はひそかに ～映画『シンデレラ』より／M.デヴィッド、A.ホフマン、J.リヴィングストン

SMFあり ★★★★★

1950年公開のディズニー映画『シンデレラ』の中で、「望めば夢はきっとかなう」と主人公が歌う挿入歌です。スローなバラードとして歌われることも多い曲ですが、ここでは映画版に倣い、ゆったりとした歌の部分から楽しいワルツのリズムに移る構成でアレンジされています。それぞれで異なる表現やタッチ、また個々の箇所でのさまざまなテクニック、曲全体のまとめ方など、総合的な演奏力が求められる曲です。A～Cではジャズ的なテンションを含んだコードの流れと響きのバランスをよく味わいましょう。D～Fはテンポを安定させ、8分音符の粒をよく揃えること、Gからはメロディーと伴奏を力強くしっかりと打ち出すことがポイントとなるでしょう。